

効率的な防除で 病害防除の手間とコストを削減！



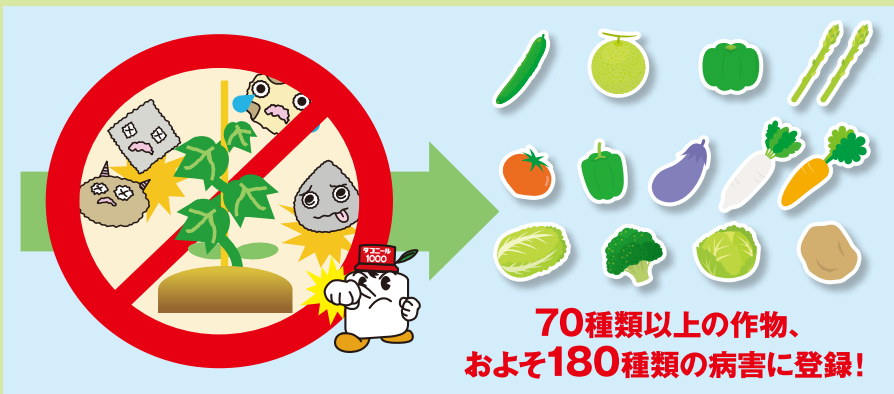
病気の予防と同時防除と

クミアイ

農林水産省登録 第16824号

ダコニール 1000

「ダコニール」、「ダコニール1000」は株式会社エス・ディー・エス バイオテックの登録商標です。



ダコニール1000で発生前・初期からの予防散布をスタート。
以降の病気の感染圧を抑える体系防除にも有効です。
発生する病気や天候・生育状況等に応じて、他殺菌剤と組み合わせて体系防除しましょう。

散布回数増加

●きゅうり:散布回数12回

無人航空機散布

●ばれいしょ:疫病、夏疫病
●しょうが:白星病

適用拡大 しました



常温煙霧

●トマト:すすかび病、葉かび病
褐色輪紋病
●ピーマン:うどんこ病

【無人航空機散布剤としての適用病害と使用方法】

作物名	適用病害名	希釈倍数(倍)	使用液量	使用時期※	本剤の使用回数※	使用方法	TPNを含む農薬の総使用回数※
ばれいしょ	疫病、夏疫病	8	1.6ℓ/10a	7日	5回	無人航空機による散布	5回
しょうが	白星病	16	3.2ℓ/10a	14日			

【常温煙霧剤としての適用病害と使用方法】

作物名	適用場所	適用病害名	希釈倍数(倍)	使用液量	使用時期※	本剤の使用回数※	使用方法	TPNを含む農薬の総使用回数※
きゅうり	温室、ガラス室、 ビニールハウス等 密閉できる場所	べと病	33	10ℓ/10a	前日	12回	常温煙霧	14回(土壌灌注:2回、散布、常温煙霧、 くん煙及びエアゾル剤の噴射:合計12回)
なす		うどんこ病				4回		4回
トマト		すすかび病、葉かび病 褐色輪紋病	3回					6回(土壌灌注:2回、散布、常温煙霧、 くん煙及びエアゾル剤の噴射:合計4回)
ピーマン		うどんこ病				50		3回

【土壌灌注剤あるいは種子消毒剤としての適用病害と使用方法】

作物名	適用病害名	希釈倍数(倍)	使用液量	使用時期	本剤の使用回数※	使用方法	TPNを含む農薬の総使用回数※
稲(稲育苗)	苗立枯病 (リゾブス菌)	500～1000	育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5ℓ) 1箱当り500ml	は種時から緑化期 但し、は種14日後まで	2回	土壌灌注	2回
		1000～2000	育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5ℓ) 1箱当り1ℓ				
きゅうり	苗立枯病 (リゾクトニア菌)	1000	3ℓ/m ²	は種時又は活着後 但し、定植14日後まで	2回	土壌灌注	14回(土壌灌注:2回、散布、常温煙霧、 くん煙及びエアゾル剤の噴射:合計12回)
トマト							6回(土壌灌注:2回、散布、常温煙霧、 くん煙及びエアゾル剤の噴射:合計4回)
レタス	ビッグベイン病		1.5～3ℓ/m ²	収穫42日前まで	1回		5回(土壌灌注:2回、散布:3回)
ブロッコリー	根こぶ病		3ℓ/m ²	定植時			3回(土壌灌注:1回、 散布及び無人航空機散布:合計2回)
みずな	立枯病			は種時			1回
ねぎ	苗立枯病 (リゾクトニア菌)	500	0.5ℓ/m ²	出芽揃い後 (出芽3日後から10日後まで)	1回	土壌灌注	4回(土壌灌注:1回、 散布及び無人航空機散布:合計3回)
わけぎ			セル成型育苗トレイ1箱または ペーパーポット1冊 (30×60cm、使用土壌約5ℓ) 当り0.5ℓ				3回(土壌灌注:1回、散布:2回)
にんじん	黒葉枯病	12	乾燥種子1kg当り60ml	は種前	1回	吹き付け処理 (種子消毒機使用)	5回(種子への吹き付け処理:1回)

※印は収穫物への残留回避のため、その日まで使用できる収穫(摘採)前の日数と、本剤及びその有効成分を含む農薬の総使用回数の制限を示しています。

2022年6月末日現在

病害の 同時防除に。

クミアイ

農林水産省登録 第16824号

ダコニール1000

「ダコニール」、「ダコニール1000」は株式会社エス・ディー・エス バイオテックの登録商標です。



ダコニール1000の特設サイト
ダコニール倶楽部
daco-club.com



有効成分：テトラクロロイソフタロニトリル (TPN)・・・40.0%w/w 性状：類白色水色と粘性糊懸濁液体

【散布剤としての適用病害と使用方法】

※印は収作物への残留回避のため、その日まで使用できる収穫（摘採）前の日数と、本剤及びその有効成分を含む農薬の総使用回数の制限を示しています。表中「－」は、使用時期の制限がないことを示しています。

作物名	適用病害名	希釈倍 数(倍)	使用 容量	使用時期※	本剤の※ 使用回数	TPNを含む 農薬の総使用回数※	作物名	適用病害名	希釈倍 数(倍)	使用 容量	使用時期※	本剤の※ 使用回数	TPNを含む 農薬の総使用回数※
きゅうり	べと病、炭疽病、うどんこ病、 褐斑病、灰色かび病、黒星病	1000		前日	12回	14回(土壌灌注:2回、 散布、常溫煙霧、くん煙及び エアゾル剤の噴射:合計12回)	もりあざみ	ステムフィウム葉枯症			30日	3回	3回
にがうり	べと病、炭疽病、うどんこ病、 斑点病、つる枯病				4回	4回	みょうが(花穂)	葉枯病、紋枯病			14日	4回	
ズッキーニ	うどんこ病				3回	3回	みょうが(茎葉)				*4		
こぼろ					5回	5回	ブロッコリー	べと病			出蕾前 但し、21日	2回	3回(土壌灌注:1回、散布及び 無人航空機散布:合計2回)
ゆうがお	べと病、炭疽病、うどんこ病				4回	4回	カリフラワー				出蕾前 但し、14日	3回	3回
うり類(漬物用、 但し、ゆうがおを除く)	べと病、炭疽病、うどんこ病、 つる枯病				3回	3回	茶	網もち病、褐色円星病			10日	1回	1回
かぼちゃ	べと病、うどんこ病、白斑病				7日	3回		黒葉腐病、灰色かび病					
すいか	炭疽病	700			5回	5回		炭疽病、もち病、輪斑病、 新梢枯死症(輪斑病菌による)					
なす	べと病	700～1000					セルリー	斑点病、萎縮炭疽病			21日	2回	2回
メロン	うどんこ病 つる枯病	700					にんじん	黒葉枯病			7日	5回	5回(種子への 吹き付け処理:1回)
トマト	疫病、葉かび病、輪紋病、 炭疽病、灰色かび病、 すすかび病、うどんこ病、 褐色輪紋病				4回	6回(土壌灌注:2回、 散布、常溫煙霧、くん煙及び エアゾル剤の噴射:合計4回)	みつば	べと病			根株養成期 但し、75日	3回	3回
ミニトマト	斑点病				2回	2回	しゃくやく(薬用)	うどんこ病			45日	15回 (1年間に3回)	15回 (1年間に3回)
なす	黒枯病、灰色かび病、 すすかび病、うどんこ病				4回	4回	みしまさいこ	炭疽病			30日	3回	3回
オクラ	葉すす病				5回	5回	らっかせい	褐斑病			14日	4回	4回
ピーマン	斑点病、うどんこ病、 黒枯病、炭疽病				3回	3回	食用ぎく				30日		
はくさい	べと病、白さび病、 白斑病、黒斑病						食用ゆり	葉枯病			14日	6回	6回
キャベツ	べと病、根朽病						ふ き	灰色かび病			21日	2回	2回
ひろしまな	白斑病						あしたば	黒枯病			30日	3回	3回
なばな類*2 (なばなを除く)	べと病、白さび病、 白斑病、黒斑病						てんさい	褐斑病			根株養成期 但し、200日		4回(散布:3回、 根株瞬間浸漬:1回)
なばな							う ど	黒斑病			前日	4回	4回
だいこん	ワッカ症、白さび病、 白斑病、炭疽病						し そ	斑点病(株枯症)			45日	3回	3回
レタス	灰色かび病						りんご	斑点落葉病、モモリア病、黒星病			前日	6回	6回
リーフレタス	べと病、すす枯病						な し	黒斑病、黒星病			60日	2回	2回
たまねぎ	べと病、灰色かび病、白色疫病						も も	灰星病、黒星病			60日	7回	7回
ねぎ	黒斑病、べと病、 小菌核腐敗病、葉枯病、 さび病						ネクタリン				前日	5回	5回
わけぎ	葉枯病、黄斑病、 白斑葉枯病、さび病						いちじく	疫病、黒葉枯病、黒かび病、さび病			60日	4回	4回
にんにく*	葉枯病、黄斑病、 白斑葉枯病、さび病						キウイフルーツ	果実軟腐病			60日	7回	7回
らっきょう	灰色かび病						マルメロ	すず斑病			前日	5回	5回
アスパラガス	茎枯病、斑点病、褐斑病、疫病						かりん	果実軟腐病			30日	4回	4回
しょうが	紋枯病、白星病						パパイア	炭疽病			45日	3回	3回
ばれいしょ	疫病						白かび	炭疽病			14日	6回	6回
やまのいも	炭疽病、葉疫病、つる枯病						パッションフルーツ	黒点病、ごま色斑点病、 白かび斑点病			－	2回	2回
やまのいも(むかこ)							しきみ	炭疽病			2回	2回	2回

★1 うり類(漬物用)に含まれる作物: 赤毛ウリ、食用ひょうたん、食用へちま、しろうり、漬物用すいか、漬物用まくわうり、漬物用メロン、とうがん、はやとり、ゆうがお ●漬物用以外のまくわうりには使用できません。
★2 なばな類に含まれる作物: あさまこな、あすこ、アレック、おおさな、太田かぶ、オーストポエム、大月菜、大野菜、かいらん、かきな、勝山水菜、きたちな、ケールコラ(なばな栽培)、こうさいたい、こまつな(なばな栽培)、さいしん、三景雪菜、四川児菜、たべたい菜、チーマデラ、チンゲンサイ(なばな栽培)、チンゲンルッコラ(なばな栽培)、摘菜花、つばみな、なばな、のらぼう菜、博多蕓菜、はくさい(なばな栽培)、はたけな(なばな栽培)、はなこーり、みずかた、めいけな

★3 葉にんにく、にんにく(花茎)には使用できません。
★4 みょうが(茎葉)への使用時期: みょうが(花穂)の収穫14日前まで 但し、花穂を収穫しない場合は開花期終了まで。

△ 効果・薬害等の注意

- 使用前に容器をよく振ってください(沈殿)。
- 石灰質資材とは混用しないでください(分解)。
- 本剤を無人航空機による散布に使用する場合は、次の注意を守ってください。
 - ①散布は各散布機種に適合した散布装置を使用してください。
 - ②散布にあっては散布機種に適合した散布装置を使用してください。
 - ③散布中、薬液が漏れないように機体の散布用配管その他散布装置の十分な点検を行ってください。
 - ④散布薬液の飛散によって動植物及び自動車の塗装等へ影響を与えないよう散布地域の選定に注意し、散布区域内の諸物件に十分留意してください。
 - ⑤散布終了後、機体の散布装置は十分洗浄し、薬液タンクの洗浄液は安全な場所に処理してください。また使用後の空の容器は放置せず、安全な場所に廃棄してください。
- ストレプトマイシン剤及びホセチル剤と混用する場合、必ず本剤を先に所定の濃度に希釈してからそれらの剤を加えてください(凝集沈殿)。
- 稲(箱育苗)の緑化期に使用する場合、発病後の処理では効果が劣ることがあるので注意してください。育苗箱から希釈液が漏出しにくいよう注意してください。
- りんごに使用する場合、ゴールドの後代品種(つがる、世界一、ジョナゴールド等)には使用しないでください(薬害)。落花後20日間は散布しないでください(薬害)。
- なしに使用する場合、二十世紀以外の品種には使用しないでください(薬害)。また、二十世紀でも7月以降に使用しないでください(薬害)。
- 有袋栽培のものに使用する場合、除袋直後の散布はさけてください(薬害)。
- いちじくに使用する場合、果実肥大期の初期あるいは夏期高温時の散布はさけてください(薬害)。
- ねぎ及びわけぎに土壌灌注する場合、は種時から出芽直後の処理はさけてください(生育抑制)。
- レタスに使用する場合、高温期の灌注はさけてください(生育遅延)。
- ラベルをよく読んでください。 ●ラベルの記載以外には使用しないでください。 ●小児の手の届く所には置かないでください。 ●空容器は圃場などに放置せず3回以上水洗し、適切に処理してください。洗浄水はタンクに入れてください。この印刷物の記載内容は2022年6月末日現在のものです。 2022年6月作成(東宣)

- しそに使用する場合、葉にからならないよう株元に散布してください(汚れ)。
- 常溫煙霧として使用する場合、次の事項に注意してください。
 - ①専用の常溫煙霧機により所定の方法で煙霧してください。特に常溫煙霧装置の選定及び使用にあたっては、病害虫防除所等関係機関の指導を受けてください。
 - ②煙霧が直接作物体に当たると汚れが生じるおそれがあるため、施設上部に噴頭部を設置するなど煙霧が作物体に直接当たらないよう注意してください。
 - ③作業は出来るだけ夕方に行い、終了後は6時間以上密閉してください。
- 花き類に使用する場合、花卉の着色期以降や収穫間際の散布はさけてください(薬害・汚れ)。
- 芝に使用する場合、夏期高温時の散布、特に暖地では葉に黄変または褐変の薬害を生ずることがあるので注意してください。
- 使用量・使用時期・使用方法を守ってください。特に初めて使用の場合は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることをおすすめします。
- 適用作物群に属する作物又はその新品種に初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用してください。なお、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることをおすすめします。

△ 安全使用上の注意

- 誤飲などに注意してください。
- 眼に入らないよう注意してください。眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の指導を受けてください(刺激性)。
- 皮膚に付着しないよう注意してください。皮膚に付着した場合は直ちに石けんでよく洗い落とす(刺激性)。
- 夏期高温時は使用しないでください。
- 使用の際は保護クリームをつけ、農業用マスク、不浸透性手袋、不浸透性防除衣等を着用してください。作業後は直ちに身体を保管…密栓し、直射日光を避け、食品と区別して冷涼な場所に保管してください。
- 洗い流し、洗眼・うがいをして衣服を換えてください。作業時の衣服等は他と分けて洗濯してください。
- かぶれやすい人は作業に従事しないでください。施用した作物等に触れないでください。
- 養菜にからならないよう注意してください(薬害)。
- 街路、公園等で使用する場合、使用区域に囲いや立て札をたて、使用中及び使用後(最小限)の当日に関係者以外は立ち入らせないでください。小児、人畜等に留意してください。
- 常溫煙霧中はハウス内へ入らないでください。また常溫煙霧終了後はハウスを開放し、十分換気した後入室してください。
- 水産動植物(魚類)に強い影響を及ぼすおそれがありますので、河川、湖沼及び海域等に飛散、流入しないよう注意してください。養殖池周辺での使用はさけてください。使用した苗は養魚田に移植しないでください。移植後は河川、養殖池等に流入しないよう水管理に注意してください。
- 水産動植物(甲殻類)に影響があります。河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意してください。
- 使用残りの薬液が生じないように調製し、使いきってください。散布器具、容器の洗浄水は、河川等に流さないでください。空容器等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理してください。
- 漏出時は、保護具を着用し、布・砂等に吸収させ回収してください。
- 移送取扱いは、ていねいに行ってください。



2124(22-6)

JAグループ
農 協 全 農 経済連
金 商 登録商標 第4702318号

自然に学び 自然を守る
クミアイ化学工業株式会社
本社:東京都台東区池之端1-4-26 〒110-8782 TEL:03-3822-5036
ホームページ <https://www.kumiai-chem.co.jp>